

# 準公共空間の公共性に関する研究 -公開空地の利用実態と空間構成について-

指導教員 加茂 紀和子 教授

福長 建司

## 1 研究の背景と目的

都市の過密化の中で公開空地\*1は市街地環境の整備及び市街地における準公共空間創出となると期待される。一方で公開空地の計画・管理は土地所有者によるものであり制度利用の目的のみに設けられたと思われるものも多く見受けられる。そのため、その公開空地が本来期待されている公共的空間として十分に機能している例は少ない。本研究では公開空地の公共性をテーマに、多くの公共的利用が期待される名古屋市中心市街地の公開空地の利用実態を把握し、準公共空間として利用されやすい公開空地の空間要素、形態考察を行う。特に建物を利用せず、公開空地のみを利用する一般利用者の滞留\*2行動に着目することで公開空地の公共的な役割について分析を行なう。

## 2 名古屋市中心市街地の公開空地の実態調査

### 2.1 実態調査

事前調査として、名古屋市中心市街地の公開空地61件を調査対象とする(図1)。利用実態の把握と空間形態の記録を目的として、調査対象すべての公開空地の現地調査を行なった。実態調査の概要を表1に示す。また対象の公開空地の形態を4つに分類した(図2)。

### 2.2 調査結果

調査の結果を表2に示す。これより、広場状や独立状では空地利用者の滞留が多くみられ、歩道状や貫通通路状では空地利用者の滞留が少ない。そこで、件数が多く、かつ滞留行動の多くみられた広場状公開空地を対象とし、公開空地の利用実態をさらに詳しく調査することとした。広場状公開空地は、前面道路に対し、開放型と囲い型があり、また、間口が広いもの(間口型)と、奥行きがあるもの(奥行型)、複合型、ピロティー型がみられ、合計8つの形態に分類した(図3)。そして、各形態の公開空地内の空間構成要素と、空地利用者数の調査結果を表3に示す。これより、同じ形態に分類される広場状公開空地であっても、公開空地内の空間構成要素によって、その利用者数に差がある事が判る。広場状公開空地の各形態で、滞留が多くみられ、空間構成要素を複数もつ8件について空間構成要素と行動の関係を探るための調査を行うこととした。

## 3 名古屋市中心市街地の公開空地空間内の行動調査

### 3.1 行動調査

公開空地内での一般利用者の滞留と公開空地内の空間構成要素の関係を明らかにするため表4に示す調査を行なった。調査の結果から、対象

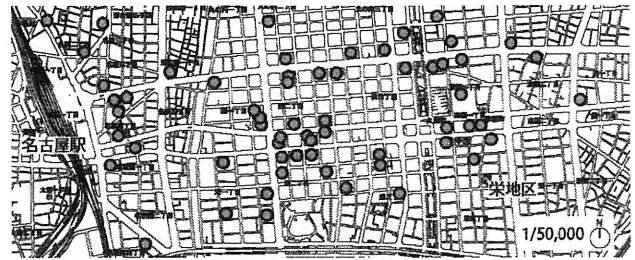


図1 調査対象範囲及び調査対象

表1 実態調査概要

対象	総合設計制度を利用し、名古屋市内に登録された公開空地のうち、平成28年度までに竣工した建物61件	調査方法	目視による公開空地内、及び前面道路の通行者、滞留者の記録。ただし複数の歩道に接する場合は歩行者の多い方を記録
調査内容	公開空地の形態、公開空地内の空間構成要素、及び通行者の動向の記録	調査日	7/20~10/8の晴れた平日
		調査時間	10:00~12:00,13:00~16:00の内10分間

	広場状	歩道状	貫通通路状	独立状
模式図				
詳細	短辺の長さが4m以上のもの	短辺の長さが4m以下のもので、長辺が前面道路に接しているもの	短辺の長さが4m以下のもので、長辺が前面道路に接していないもの	2階や地下階にあるなど、前面道路から直接アクセスできないもの
凡例				

図2 公開空地の形態分類

表2 名古屋市中心市街地の公開空地の件数と利用実態

	広場状	歩道状	貫通通路状	独立状
件数(件)	30	20	1	9
平均通過人数(人/10分)	28.7	13.4	14.0	37.0
平均滞留人数(人/10分)	5.0	1.3	1.0	8.9

	間口	奥行	複合	ピロティー
	前面道路に対して間口方向が長辺となる形態	前面道路に対して奥行き方向が長辺となる形態	広場型の前面や側面に接道拡張型が付いた形態	ピロティー部分を公開空地とする形態
開放型				
前面道路と空地の間に植栽等の障害のないもの。				
囲い型				
前面道路と空地の間に植栽等の障害で動線や視線を制限するもの。				

図3 広場状公開空地の形態分類

表3 広場状公開空地の空間構成要素と空地利用者数

	空間構成要素			空地利用者数				空間構成要素			空地利用者数		
	間口	奥行	複合	間口	奥行	複合		間口	奥行	複合	間口	奥行	複合
開放型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
間口型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
奥行型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
複合型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ピロティー型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
間口型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
奥行型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
複合型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ピロティー型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

の公開空地の平面図上に一般利用者の滞留行動をプロットし、公開空地内の滞留位置ごとに行動内容の内訳を円グラフで示し、滞留時間の合計を円の大ききさで示した(図4)。

**3.2 空間構成要素と滞留の関係** 滞留の多くはベンチや植栽などの空間構成要素の周辺に多くみられた。また、開放型公開空地に比べ囲い型公開空地で長時間の滞留が見られる。灰皿のある公開空地では喫煙による滞留が多くみられた。

〈開放型公開空地〉 中電電気文化会館をみると、歩道付近の壁や植栽の周りで電話や携帯を見るといった短時間の滞留がみられた。同様に、ベンチの利用も歩道付近では短時間の滞留がみられた。一方で、歩道から離れた公開空地中央や建物入口付近のベンチでは飲食、読書といった長時間の滞留がみられた。

〈囲い型公開空地〉 名古屋東ビルをみると、公開空地中央での滞留が少なく、広場を囲む柱や植栽の付近に滞留がみられた。そのほとんどが携帯を見る、電話といった滞留行動であった。中区役所朝日生命共同ビルと日土地名古屋ビルでも同様の特徴がみられた。また建物入口付近に並べられたイスやテーブルでは、会話や飲食など長時間の滞留がみられた。一方、複合型広場状公開空地のグラスシティ栄では、歩道状部分と広場状部分で利用内容が異なる。歩道状部分では植栽付近で電話、会話の短時間の滞留がみられたのに対し、広場状部分では休憩、飲食といった長時間の滞留がみられた。

**3.3 空間構成要素の位置と行動内容の関係** 公開空地の空間構成要素の位置と行動内容の関係を作成した(図5)。開放型では、歩道付近で携帯や電話といった短時間の利用がみられ、公開空地中央から、建物入口付近では、長時間の利用がみられる。一方、囲い型では公開空地内での空間構成要素の位置に関係がみられず、植栽や壁・柱の付近で短時間の利用がみられ、ベンチやテーブルで長時間の利用がみられるため、空間構成要素と利用内容に関係があると言える。

**4. まとめ**

以上より、名古屋市中心市街地における公開空地の実態を把握する事ができた。また、公開空地内における人の行動内容と空間構成要素の関係が明解になった。準公共空間として一般利用者の滞留をもたらす為には、囲い型公開空地の場合、広場を囲む植栽や壁の付近にベンチやテーブルを配置する事が効果的であり、開放型公開空地では、短時間の利用者で長時間の利用者に対する構成要素を適切に配置することが効果的であると考えられる。

【注】\*1 名古屋市の定める総合設計制度に該当する公開空地を指す  
\*2 公開空地内で1分以上その場に留まる場合を滞留と扱い、1分未満の場合を通過と扱う。

【参考文献】  
1) 名古屋市長総合設計制度適用一覧  
2) 名古屋市中心部公開空地位置図

表4 行動調査概要

調査内容	現地調査を行い空地利用者を利用時間、利用場所、利用内容に着目し記録する。	対象	・グラスシティ栄 ・スカイオアシス栄 ・中電電気文化会館 ・中区役所朝日生命共同ビル ・名古屋駅前日興証券ビル ・名古屋東ビル ・名古屋インターシティ ・日土地名古屋ビル
調査方法	調査は対象ごとに1時間の観察を3回行う。1分以上同じ場所に居る、または立ち止まった利用者を観察対象とし記録する。		
調査日	10/11~10/28の晴れた平日		
調査時間	10:00~11:00, 13:00~14:00, 16:00~17:00		

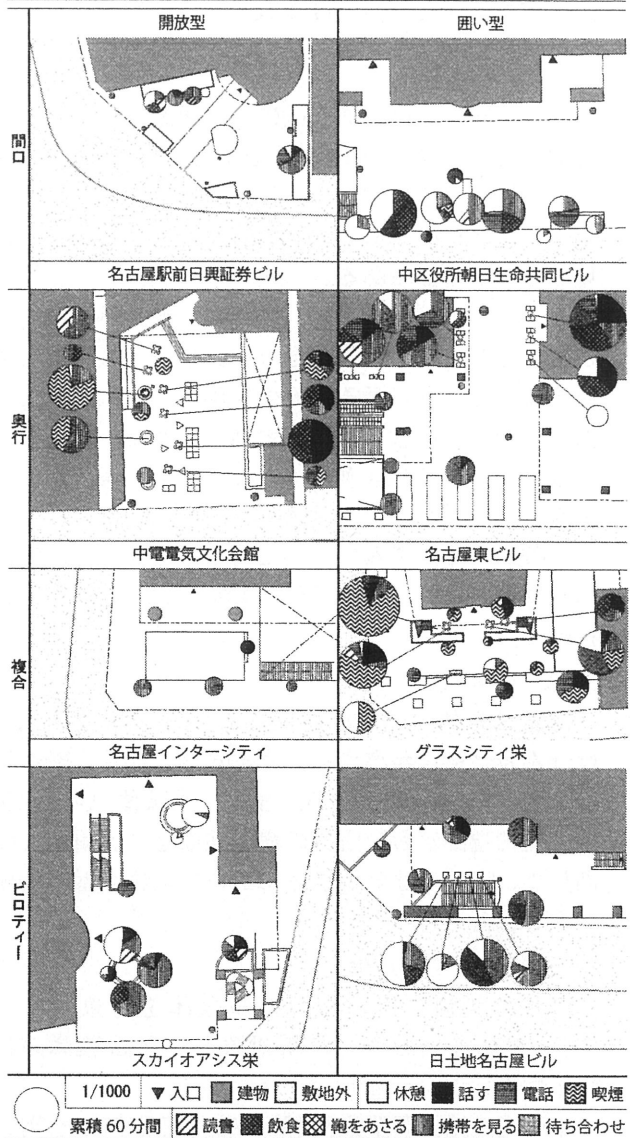


図4 公開空地内の滞留位置と行動内容

対象	空間構成要素	空間構成要素詳細(利用内容)	
開放型	名古屋駅前日興証券ビル	植栽(電話・携帯) SF 壁・柱	植栽(携帯) ベンチ(携帯・電話) ベンチ(読書・休憩)
	中電電気文化会館	植栽 SF 壁・柱	植栽(携帯) ベンチ(携帯) テーブル(飲食・会話) テーブル(携帯・読書) 壁(電話) 壁(電話)
	名古屋インターシティ	植栽 SF 壁・柱	高木(携帯・電話) ベンチ(会話) 植栽(電話)
	スカイオアシス栄	植栽 SF 壁・柱	植栽(待合) ベンチ(読書) ベンチ(休憩) 柱(電話)
	中区役所朝日生命共同ビル	植栽 SF 壁・柱	植栽(靴をあさる) 植栽(電話) ベンチ(休憩) オブジェ(待合) 植栽(電話) 柱(電話)
囲い型	名古屋東ビル	植栽 SF 壁・柱	植栽(携帯) テーブル(飲食・会話) 壁(電話) 柱(携帯)
	グラスシティ栄	植栽 SF 壁・柱	高木(電話) 植栽(電話) ベンチ(読書) テーブル(会話)
	日土地名古屋ビル	植栽 SF 壁・柱	植栽(休憩) ベンチ(休憩) 壁(電話)
			柱(携帯)

図5 空間構成要素の位置と行動内容の関係